

## プロジェクト研究所活動実績・成果報告書

令和7年9月30日

静岡大学長 殿

研 究 所 名	コンピテンス基盤型教育研究所
所 長 名	野津一浩
設 置 期 間	令和6年4月1日 ～ 令和9年3月31日

報告対象期間 (活動実績報告書の場合のみ記入)	令和6年4月1日～令和7年9月30日
	<p>○子どもを対象に、「こたえのない問い」を探究することを通して自分の考えをつくるとはどのようなことなのかについて考える授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年3月7日 焼津市立東益津中学校「こたえのない授業」</li> <li>&lt;頭がいいってどういうこと？&gt; &lt;推し活を語ろう&gt; &lt;理想のヒーロー像を追え！&gt; &lt;オムライスは80くらい～伝えるってなあに&gt; &lt;これって何の話？&gt; &lt;どうしてるの？ものごとをくくってみよう&gt;</li> <li>・令和6年8月24日 浜松市中央図書館「情報活用講座」</li> <li>・令和6年11月1日 大成高校「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和6年11月22日 静岡東高校「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和7年5月23日 静岡東高校「総合的な探究の時間」探究に関する講義</li> <li>・令和7年8月2日 浜松市中央図書館「情報活用講座」</li> <li>・令和7年2月26日 第一学院高等学校（静岡校）「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和7年2月28日 第一学院高等学校（静岡校）「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和7年4月18日 静岡大成高等学校「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和7年4月25日 静岡大成高等学校「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和7年5月16日 静岡大成高等学校「総合的な探究の時間」</li> <li>・令和7年5月30日 静岡大成高等学校「総合的な探究の時間」</li> </ul> <p>○大学教員・学校教員・大学院生・学部生を対象に、子どもの考える力を高めるための学びを支えるために「教科として学ぶとはどのようなことなのか」という問いについて対話を行う。（ゆる対話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年6月3日 静岡大学「主体的ってどういうこと？」</li> <li>・令和7年6月24日 静岡福祉大学「主体的ってどういうこと？」</li> <li>・令和7年7月8日 静岡福祉大学「自分で考えるってどういうこと？」</li> <li>・令和7年7月25日 静岡大学「自分で考えるってどういうこと？」</li> <li>・令和7年8月19日 焼津市立東益津中学校「問うってどういうこと？」</li> <li>・令和7年9月26日 附属静岡中学校「問うってどういうこと？」</li> </ul>

○見方・考え方を鍛えるための教科学習における「探究的な学び」と「対話的な学び」に関する授業実践研究を行う。

- ・町岳・斎田裕子(印刷中) 国語科授業における一文読解方略指導と児童の方略獲得過程の検討 日本教育工学会論文誌 49/3
- ・馬場美保・町岳(2004) グループ学習改善手続きが自律的に学びあいを調整する力とプロセスへ与える効果 日本教育工学会論文誌 48/3 pp.549-562
- ・町岳「学校において研究をどのように計画するか」「教育実践を研究する」「学校現場との協働」 日本学校心理学会(編)「学校心理学事典」丸善出版(2025年) pp.594-595, 598-601
- ・野津一浩・齋藤剛(2026) 保健科における知識を活用できない問題ー健康や安全に関する原則や概念の明確化に向けてー 日本教科教育学会
- ・齋藤剛、野津一浩、カリキュラム・オーバーロード問題への対応ー学習内容の重点化ー、日本教科教育学会第50回全国大会、2024年11月9・10日(つくば)
- ・齋藤剛、野津一浩、学習指導要領における「資質・能力」の意味についてー育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会の議論からの考察ー、静岡福祉大学紀要、第20号、71~75、2024
- ・齋藤剛、野津一浩、中学校保健授業に関する教師の認識調査ー「保健指導」指向の授業観ー、第68回東海学校保健学術大会、2025年9月6日(三重) 優秀演題賞
- ・得居千照(2024)「哲学対話を通じた地域における多様な文化への気づきー小学生の気仙茶作り体験の実践分析を通してー」井田仁康監修、唐木清志・國分麻里・金玗辰編著『Well-beingをめざす社会科教育 人権/平和/文化多様性/国際理解/環境・まちづくり』古今書院、pp.128-139
- ・得居千照・田口空一郎・石渡美恵子・菊池虹・河野哲也(2025)「地域創生の哲学対話(1) 気仙沼での実践」『立教大学教育学科研究年報』第68号、pp.33-50.
- 得居千照・佐藤摩依・奇二正彦・河野哲也・丸尾萌子・河原由貴(2025)「地域創生の哲学対話(2) 沖縄での実践」『立教大学教育学科研究年報』第68号、pp.51-68.
- ・Chiaki TOKUI, What Kind of Interactions Do Students and Teachers Have in p4c:descriptions of the “period of integrated study” practices in Japanese high school through Trajectory Equifinality Model (TEM) and Ethnomethodology and Conversation Analysis (EMCA)、SYMPOSIUM : Exploring Philosophical Dialogues From Three Perspectives、The University of Hawai'i Uehiro Academy for Philosophy and Ethics Education (Hawaii) , February 26, 2025.
- Chiaki TOKUI, Let's Co-Create a “Philosophical Picture Book”: Proposing New Methods of Philosophical Practice、18th INTERNATIONAL CONFERENCE ON PHILOSOPHICAL PRACTICE (ICPP) (Croatia,Zagreb) 、June 12, 2025 (査読あり) .
- ・得居千照「長野県立大学で哲学ウォークしようー問いとともに、歩いて、問うて、考えるー」哲学プラクティス連絡会第10回大会(長野県立大学、長野)

活動実績内容

哲学プラクティス連絡、令和6年9月28日。

得居千照「問いと対話で「てつがくえほん」をつくってみよう」哲学プラクティス連絡会第10回大会（長野県立大学、長野）哲学プラクティス連絡、令和6年9月28日。

小川泰治、得居千照、片柳那奈子、麻生修司、神原裕、増田陽子「『みんなで考えよう』編集委員企画 哲プラ系雑誌レビュー祭りーどうすれば書かれたものを通して「みんなで考える」ことができる？」哲学プラクティス連絡会第10回大会（長野県立大学、長野）哲学プラクティス連絡、令和6年9月28日。

得居千照「教員養成課程における哲学対話の応用可能性に関する実践報告とその課題ー小学校「社会科指導法」における模擬授業での取り組みを事例にー」日本哲学プラクティス学会第5回大会（長野県立大学、長野）日本哲学プラクティス学会、令和6年9月29日。

田口空一郎・石渡美穂子・得居千照・河野哲也「多世代地域コミュニティ形成のための哲学対話の実践報告ー気仙沼市における3つの事例を通してー」日本哲学プラクティス学会第5回大会（長野県立大学、長野）日本哲学プラクティス学会、令和6年9月29日。

得居千照「教員養成課程における哲学対話実践者のセルフスタディはどのように実践することができるのだろうか」日本哲学プラクティス学会第5回大会（長野県立大学、長野）日本哲学プラクティス学会、令和6年9月29日。

得居千照「授業における哲学対話の相互行為分析」P4C&ETP研究会第3回大会（早稲田大学、東京）P4C&ETP研究会、令和6年12月27日。

得居千照・坂田尚子「初年次教育における初等生活科カリキュラムの役割ー体験活動を重視した教職科目「生活」の実践と学生のふりかえりを通してー」第34回日本生活科・総合的学習教育学会（山形大学、山形）日本生活科・総合的学習教育学会、令和7年6月29日。

得居千照「哲学対話の身体性の記述に向けた現状と期待」企画代表者：河野哲也、企画者：山口真美、石川みくり、公募シンポジウム[SS10]哲学対話の身体性とエビデンスを求めて、日本心理学会第89回大会（東北学院大学五橋キャンパス、岩手）日本心理学会、令和7年10月1日。

得居千照「すべてのひとに石がひつよう？ー南山大学で哲学ウォークを通して考えようー」哲学プラクティス連絡会第11回大会（南山大学、愛知）哲学プラクティス連絡、令和7年9月20日。

片柳那奈子・得居千照・増田陽子・小川泰治・麻生修司「47都道府県の哲学プラクティスin愛知」哲学プラクティス連絡会第11回大会（南山大学、愛知）哲学プラクティス連絡、令和7年9月20日。

川手彩夏・下谷桃子・得居千照・河野哲也「沖縄での平和教育のための対話」哲学プラクティス連絡会第11回大会（南山大学、愛知）哲学プラクティス連絡、令和7年9月21日。

得居千照「哲学プラクティスとは、前提を問い直し、自由になるための社会的実践のことーひとつのトレーニングの場としての哲学プラクティスー」日本哲学プラクティス学会シンポジウム「哲学プラクティスと多様な方法ー哲学ウォーク、ソクラテック・ダイアログ、トラウマを抱えた人々との対話ー」（南山大学、愛知）令和7年9月21日。

### ○学校・地域における対話の場づくり

・社会教育施設における哲学対話の講師（令和6年4月～現在）江戸川区子ども未来館「子ども哲学～思考力と対話力をみがこう～」の講師として、哲学対話のファシリテーター、運営、調査を実施している。

・気仙沼「気仙沼中央公民館」「気仙沼図書館」「リアス・アーク美術館」における地域創生のための哲学対話の運営参加・支援・調査担当、令和6年6月。

・静岡市、焼津市における対話の場づくり（令和6年8月～現在）静岡福祉大学駅前キャンパス、静岡科学館 る・く・る、静岡県立静岡中央高等学校、焼津山の手会館、ターントクルこども館、静岡雙葉中学校・高等学校、焼津小泉八雲記念館等において、地域や学校における対話の場づくりとして哲学対話の運営、実践を行っている。

・沖縄県「沖縄県平和祈念資料館」「ジュンク堂那覇店」「沖縄県立首里高等学校」「沖縄アミークスインターナショナル」「浦添市立港川小学校」「西原東小学校」「豊見城市立豊崎中学校」における地域創生のための哲学対話の運営参加・支援・調査担当、令和6年9月。

・新潟県「池田記念美術館」における地域創生のための哲学対話の運営参加・支援・調査担当、令和6年10月～令和6年11月。

・「高等学校における学級づくりの意義と方法－探究の共同体づくりを志向する哲学対話の実践を通して－」令和7年3月～現在。

・「高等学校公民科「公共」における哲学プラクティスを応用した教育方法に関する実践研究」令和7年5月～現在。

・沖縄県「開邦中学校」「真和志小学校」「首里高校」「南風原小学校」における地域創生のための哲学対話の運営参加・支援・調査担当、令和7年6月。

・新潟県「池田記念美術館」における地域創生のための哲学対話の運営参加・支援・調査担当、令和7年8月。

・静岡県「焼津小泉八雲記念館」での「おばけっているのかな？～みんなで考える哲学対話」哲学対話の企画・運営、令和7年8月17日。

### ○国際交流関係

・令和7年9月23日 モンゴル国 モンゴル教育総合庁舎、チンゲルテイ区役所にて、モンゴルにおける教育課題について協議 主に多様な子どもたちへの対応について話し合いを行った。

・タイ・バンコク・クロントイ「シーカー・アジア財団」における地域創生のための哲学対話の運営参加・支援・調査担当、令和7年8月21日。

成果	(1) 研究計画の達成状況	研究における対象ごとのフィールドを確保するとともに、その拡大を図ることが進んでいる。「探究的な学び」の解明に関わって、その方法論に偏ることを避けて学校現場での実践を積み重ね、探究することの意味を探究することにより、問題解決学習や課題解決学習との違いを検討する状況にある。また、「対話的な学び」の解明に関わって、教員や学生及び一般を対象にした哲学対話の実施を積み重ねている。答えを求めて考えるのではなく、ただただ考えることにより、考えること自体の意味を参加者と考えることにより、わかっていない自分に向き合うことについて検討を進める状況にある。
	(2) 運営の状況 ①外部資金の獲得状況	非公開
	②学内外との連携による成果等	小学校・中学校・高等学校における実践を通して、「探究」や「対話」等の言葉は使用されてはいるものの、その意味理解が進んでおらず、記号のように使われている、すなわち言葉に接地していない実態を把握することができた。意味理解を深めないまま外から言われる方法論に頼ってしまっている状況にあることを改善していく必要性を捉えることができた。
	(3) 顕著な研究の進展状況	考えることを目的にした探究活動や哲学対話によって得られたことを教科の授業へ反映させ、これまでの授業づくりを問い直すことによる実践研究を展開して学会や論文による発表を行っている。
	(4) 顕著な活動と認める事項	学校現場を対象とした活動を中心にしながら、合わせて学校外での活動へと展開させている。また、本研究における問題意識は海外も同様にあるという見解のもと、その海外の状況の調査を進めている。
その他		